

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2019

事業所番号	2690400052		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都下京の家		
所在地	京都市下京区夷馬場町30-1		
自己評価作成日	2019年12月12日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域と手をつなぎ、安心・安全な暖かい共同家庭を作っています。行事以外も手作りおやつを増やしたり、職員共々日々穏やかに楽しく暮らせる様支援しています。町の真ん中で狭い空間ですが職員共々笑顔が絶えない楽しい暮らしをして頂けるよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	2020年1月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市西南部、京都駅近くの住宅街、水族館やアリーナが開設されている地域にある木造2階建て、開設9年になる1ユニットのグループホームである。民家で利用者9人、グループホームの原型である。管理者の交代や職員の入れ替わりが続いていたが昨年春から落ち着いている。「利用者が落ち着いて自由に家にいるように暮らせる」を目指して、職員が一丸となって努力している。職員は一人ひとりの利用者への声掛けや対応が温かく、やさしくなるように心がけている。利用者は端午の節句にはこいのぼりを作り、七夕には短冊に願いを書いて笹に吊るし、敬老の日は紅白まんじゅうで祝い、月見の日はススキを飾って団子を食べながら空高く上った満月を見る。利用者は四季を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「地域と手をつなぎ安心、安全、温かい住み家にしよう」に添って地域との繋がりを進めていきたいと思ひます。	グループホームの理念は「地域と手をつなぎ、安心安全、暖かい住み家にしよう」と定めている。開設時に管理者と職員が話し合ったものである。職員は利用者に対して、同じ家に住んでいる家族のようにゆっくりとやさしく丁寧に話しかけ、対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地蔵盆の行事に参加させて頂いたり回覧板を通して地域の情報を得ています。	理念の実践として地域との良好な関係をつくろうと努力している。町内会に加入、回覧板により地域の情報を得ている。地蔵盆に参加、利用者はおさがりもらっている。利用者は近くのコンビニで買物している。	利用者にとってグループホームは引っ越してきた我が家である。散歩に行き楽しんで、普段の買い物をする店、郵便局、ゆっくりベンチに座って季節を楽しむような公園、近くに住んでいて友達になった人等々、利用者の地域生活を支援すること、ホームの行事に町内の人や子どもたちに参加してもらって利用者との交流ができること、以上の2点が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今の所、地域への貢献は出来ていません。		ten ga
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂いた地域の方のご意見を参考に出来ることは実践していきたいと思ひます。	下京地域包括支援センター、民生委員、家族が委員となり、隔月に開催、議事録を残している。ホームから利用状況、行事、事故・ヒヤリハット、職員研修を報告後意見交換している。「利用者の生活の様子が知りたい」の意見があり、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	参加して頂いた地域の方のご意見を参考に出来ることは実践していきたいと思ひます。	京都市や下京区とは必要な報告をし、相談したりして、連携を保っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じ具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしない、させないケアに努めています。	身体拘束をテーマに年2回職員研修を実施しており、職員は身体拘束11項目、やむを得ず拘束する場合の3要件、スピーチロックについて認識している。センサーも含めて身体拘束の事例はない。玄関ドア、エレベーター等はキイロックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じ、認識、理解を深め現場での虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用する方がおられ、学ぶ機会が多くなり、それぞれの必要性を話し合い活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、入居後のトラブル、誤解の起きないように説明に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内では意見箱を設け、法人としては意見等を言える専用窓口を設けています。	家族の面会は毎月来る人もあるものの、一度も来ない人もあり、電話連絡を断る人もいる。家族への広報誌は発行していない。体調変化等の連絡と利用者の日頃の様子は毎月連絡している。面会に来た家族とは面談し意見を聞いている。「外出やレクをしてほしい」という意見が多い。室内のレクをふやそうと検討している。	家族は職員と共に利用者を支える車の両輪のひとつである。グループホームの行事に家族に参加してもらうように招待すること、家族同士が気軽に話し合い交流できる場を設定すること、ホームから日頃の様子や職員紹介、献立等を報告すること、運営推進会議に参加してもらえるようお願いすること、以上の4点が求められる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定期会議、毎週本部よりの通達、日々の職場での連絡事項を通じてお互いに提案、意見交換を行っています。	職員会議を毎月開催、運営の話し合い、ケースカンファレンス、内部研修をしている。職員はチームワークがよく、会議だけでなく日頃から意見や提案を気軽に出し合い、お互いに話し合っている。内部研修は法人のテキストにより、必要なテーマで毎月実施している。資格取得を推奨し、取得した人には資格手当を支給している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の福利厚生面において法人内の福利厚生施設での各関係講習会や前向きになるための気持ち良い職場作りに取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前より一貫して法人の管理者研修他、自己啓発のための講習、資格取得の推奨、それに付随する手当等、職員組織全体のレベルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連絡会、交流会に参加し事例紹介や各施設での出来事を話し合い職員間の交流を拡大していきます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人様は不安、孤独感、緊張感があり、出来るだけ払拭できるように声掛け見守り受容等、意思の疎通を図っていきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも施設に望まれている事を聞き取り、御本人共々、関係づくりに努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の要望に対して充分対応支援出来ることを説明し、施設の生活に一日も早く馴染めるよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に暮らしていける関係づくりを築けるように努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と共に本人を支えていく関係を築くように努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に築いてきた人間関係が希薄にならないように家族、知人の面会等、来訪を促しています。	利用者の古い友人が面会に来ると、利用者は喜んでおしゃべりしている。	利用者は今、長い人生の最後の時をグループホームで過ごしている。かつて友人だった人、近所付き合いをしていた人、かわいがっていた甥や姪、今どうしているか、もう一度会いたい。以前住んでいた家、先祖や亡夫を祀っているお墓、昔よく見に行っていた花見の場所、お祭り等、もう一度行ってみたい。このような会いたい人や行きたい場所への支援が求められる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が互いに仲よく関わり会えるように支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡を取り相談や支援に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや暮らしの希望、意向の把握に努めています。	契約時には管理者が利用者や家族に面談、種々説明すると共に利用者の医療や介護の情報を収集、利用者のこれまでの生活の様子とグループホームでの暮らし方の希望を聴取している。生活歴は出身地や結婚生活のきれぎれの一部の記録のみで情報が非常に少ない。利用者の「思い」は「楽しくすごしたい」「歌が好き」等を記録している。	長い人生を送ってきた利用者のグループホームでの生活を支援するためには利用者を深く理解することが欠かせない。そのためには利用者の生活歴の情報が必要である。どこで生まれたかという出身地、父母、兄弟姉妹等生家のこと、子ども時代、現役の時の仕事や趣味、仕事仲間や友人、夫や妻の仕事、子どものこと等結婚生活等々の情報を収集し、記録に残し共有することが求められる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の暮らしてこられた生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢、体力、病歴等を考慮して散歩他、各々の出来る事の理解に努め本人の負担にならないように生活レベルを維持していきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状に即した介護計画を作成するように努めています。	アセスメントと介護計画作成は月に1回出勤するケアマネジャーが管理者やリーダーから利用者の情報を聴取して実施している。介護計画はほとんどが身体介護の項目であり、認知症の不安や混乱についても要因究明になっていない。利用者の固有の楽しみの項目はない。介護記録はバイタル、水分量、食事量、服薬、排泄、入浴等生活のデータと日中と夜間の利用者の様子を簡単に書いたものであり、介護計画の実施記録は実施したかどうかを○×で記録しており、実施したときの利用者の様子は書いていない。モニタリングは「長期目標」「短期目標」「サービス内容」「実施状況」「目標達成度」「満足度」「プラン変更の状況」の項目で行っている。	介護計画はどんな重度な利用者にも身体介護のみならず、その人固有の楽しみの項目をいれること、介護記録は生活のデータだけでなく、介護計画を実施したときの利用者の発言や表情、拒否があったときはその要因を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは「サービスの内容」「実施状況」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「計画変更の可否」の項目で点検すること、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、介護記録を通じて体調管理等に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調変化やニーズに対してその都度、通院介助付き添い等、多機能的に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、入居者の皆さんで楽しむことが出来るよう支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院と連絡を取り、適切な医療が受けられるように支援しています。	利用者の入居前からのかかりつけ医が往診にきてくれる。ほとんどの利用者は協力医療機関(千本診療所)からの医師の往診を受けている。歯科は訪問歯科医を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さまが適切な受診や看護を受けられるように支援していきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前カンファレンスに参加し相談員の方と情報の共有をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族様と話し合っって重度化や終末期に向けて方針を決めています。	利用者の重度化や終末期に関して、グループホームとしては医療的な対応はできないと、契約時に家族に説明している。家族の意向は病院搬送を希望する人が多い。ホームとしては医師の診断が出た段階で改めて医師、家族と相談する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時の対応について施設職員で勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含め避難訓練を年二回実施しています。	消防署の協力のもと火事に対する避難訓練を年2回実施している。地震についての訓練を予定している。グループホームは風水害の危険地域ではない。備蓄を準備し期限切れ等を点検している。ハザードマップをスタッフ室に掲示、職員は危険個所を認識している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格、誇り、プライバシーを損ねない対応を心がけています。	利用者への対応や言葉遣いについての基本は心をこめて丁寧に対応すること、子ども扱いは禁止している。毎年職員研修をしている。スピーチブックにも十分注意している。職員会議や職員同士の申し送りについては利用者のプライバシーに配慮して実施している。暮らしでは職員の押し付けでなく、利用者によって決めてもらいたい、衣服の着替えやお茶の時間の飲み物の選択は利用者の意思を尊重している。髪形は訪問美容を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた介護を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものとなるよう、工夫に努めています。	朝食は職員が毎週買物に行き保管している食材を使って夜勤者が手作りしている。昼食と夕食はごはんのみそ汁を手作りし、副菜は「ワンツースリー」から調理済みのものを買っている。副菜はカロリー値と栄養バランスが点検しており、季節感があり、おせちやひな祭りのちらし寿司等の行事食もある。和洋中のバラエティに富んだ家庭食である。利用者は盛り付けや食器洗いをしている。みじん切りが必要な場合は1品ずつしている。数人ずつが食卓を囲み、会話しながら自由に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を一人一人把握しており、水分量についても不足とならないよう心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔ケアは必ず実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗を咎めることなく、気長に自立に向けて支援しています。	布パンツ使用で尿意があり、自身でトイレに行くという排泄の自立をしている人は1人、日中もオムツ使用の人は1人、あとの利用者はリハビリ、パット使用、それぞれの排泄パターンを把握している職員の声掛けでトイレに行っている。自然排便を目指しているものの、屯用の下剤に頼ることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて把握をし、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調に合わせて週2～3回入浴できるように支援しています。	こじんまりとした浴室にユニットバスを据えている。午後の時間帯に入浴の声掛けをし、毎週2回の入浴を支援している。「入りたくない」という人は後回しにしたりしており、長期間入浴していない人はいない。湯の温度や浸かっている時間は利用者の好みに添っている。季節にはゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ち良く眠れるよう工夫して支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理には特に気を付けており、症状の変化等、観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味を把握して折り紙、塗り絵、歌、カルタ取り等、また、簡単なお手伝いを苦にならないように社会的共同参加をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒暖の差が厳しい時期以外は毎日散歩に出掛けられるようにしており、季節毎のドライブを楽しみにされています。	利用者はホームのまわりを歩いたり、近くのコンビニや公園に行くこともあるものの、歩くことのできる人に限られ、1か月に1回くらいである。ホームの周りではこぼこのある歩道のため車椅子を押しての外出はできない。ホームは車を持っていないためドライブはできていない。	ホームからほとんど出られない生活は人間らしい暮らしとは言えない。車椅子対応のできる車を準備すること、すべての利用者が最低毎週1回以上、散歩や外出をすること、季節ごとに初詣、花見、紅葉狩り等にドライブすること、以上の3点が求められる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物があるときにはご家族様に相談の上、職員と一緒に買い物に出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望時には職員見守りにて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に整理整頓、掃除を心がけ、気持ち良く過ごせるよう努めています。	玄関土間に下駄箱、奥に延びる廊下の両側に居室やスタッフ室等が並ぶ。中央にある居間兼食堂(ホール)は大きな窓があり明るい。2つの食卓と椅子、窓際の棚に本、新聞、CD等を並べ、壁には和紙でつくった大きな貼り絵等、落ち着いた雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや新聞を観たり折り紙やをしたりと、各々に過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある荷物をお持ちいただき、自宅で過ごしているような気持ちでいられるよう努めています。	居室のドアにカラー紙で折った鶴、その人が好きな絵を入れた額等をかけている。居室は洋間、カーテンをつけた収納庫が7あり、ベッドと空調を備えている。利用者は和筆筒、衣装ケース、テレビとテレビ台、仏壇等をもちこんでいる。壁に大きなカレンダーや時計を掛けている人もいる。筆筒の上に小さなマスコットや飾り、京人形、亡夫の写真、愛読書、編み物道具、カメのはく製、お気に入りのヒョウ柄の服等々、利用者のこれまでの暮らしや趣味を如実に表している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの環境を整備し、安全に配慮した空間を作れるよう努めています。		